

抗がん剤調製業務効率化に向けた取り組みに関する研究へのご協力をお願い

研究名

抗がん剤調製業務効率化に向けた取り組み

1.研究の対象

2020年4月～6月の間に外来通院で抗がん剤治療を行う患者さま
済生会横浜市南部病院抗がん剤調製担当薬剤師

2.研究目的・方法

【目的】

抗がん剤調製室は、外来抗がん剤点滴室と片開きの引き戸を隔てて併設されており、調製した抗がん剤の搬送や看護師との情報共有に利便性がありましたが、以前より Hazardous Drugs への曝露が危惧されていました。また患者さまの調製待ち時間短縮のために、薬剤師は複数の患者さまの抗がん剤調製を同時並行して行っています。また、調製した抗がん剤を払い出すために点滴室を頻繁に往来するといった負荷の高い作業環境となっています。

今回、抗がん剤曝露対策強化の観点からドアをパスボックスに改修し調製室を独立させたことに伴って、抗がん剤の調製や払い出しの運用を見直し、患者さまの待ち時間に影響なく業務効率化を図りたいと考えております。

【方法】

可能な限り1レジメン全ての薬剤調製終了後に払い出しを行う運用へ変更することを目標とし、まず1レジメン調製終了までの時間を計測して調製手順の確認を行います。また、調製時間を確保するために調製開始を医師による電子カルテ上での投与確定操作（以下、医師確定）へ移行します。ただしCVポート挿入患者の調製開始は、看護師の要望があり従来通りのままとします。

運用変更前後において、医師確定から点滴開始までの時間計測を行い、影響を調査します。また調製に起因する薬剤廃棄を伴う調製ミス の件数等を調査し、調製業務の負荷への影響を調査します。

3.研究に用いる情報の種類

投与実施の確定時刻、点滴を開始した時刻、抗がん剤調製時間、薬剤廃棄件数、ヒヤリハット・インシデント件数

4.外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された対象者さまを特定する個人情報 は公開いたしません。また、調査に利用させていただいた情報は、個人が特定できない状態でパスワードをかけて厳重に管理いたします。

この研究を行うことによる対象者さまへの負担はありません。

5.研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 寺島 聡子

6. お問い合わせ

本研究への協力を望まれない方は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡をお願いいたします。

病院代表：045-832-1111（内線267）担当者 寺島 聡子